

学校評価は、経営計画や教育計画に基づいて行われる教育活動がどの程度機能しているのかを評価するために行います。その結果から、学校が抱えている課題を明らかにし、学校改善を進め、生徒をよりよく育成するとともに、学校の経営責任・説明責任を果たすためのものです。

学校評価には「自己評価」と「学校関係者評価」があります。「自己評価」（平成 19 年度より実施）は、教職員がアンケート（生徒・保護者・教員を対象に行うアンケート）などの結果を基に行います。「学校関係者評価」（平成 20 年度より実施）は、学校関係者（地域住民や PTA 学級委員）が自己評価の評価項目の内容、評価基準、評価結果等について、総合的に評価するものです。

静岡大学大学院の山崎保寿教授のご指導を受け、経年変化を改革に活かすため、平成 27 年度からは項目・基準をほぼ同じにして実施していますが、学校関係者評価のご指摘などを鑑みて一部項目・基準を変更したものもあります。H30 年度は学校目標に照らしてアンケートの聞き方を「掃除をしっかりと組み」から「掃除を自ら進んで」に変更しました。

1. 「自己評価」の回答基準、評価基準は以下のとおりです。

アンケートの回答は 4 段階（項目によって表現の違いあり）ア、よくできた
 イ、ほぼできた
 ウ、あまりできなかった
 エ、まったくできなかった

評価基準は 4 段階 A 上記アとイの割合が 90%以上
 B 上記アとイの割合が 80%以上
 C 上記アとイの割合が 70%以上
 D 上記アとイの割合が 70%未満

2. 保護者アンケート項目は、6 つの指導項目についてそれぞれ 2 つずつの具体的なアンケート項目について、自己評価と同じレベルの 4 段階で評価していただきました。

3. 学校関係者評価委員会は年間 3 回実施し、自己評価について評価していただき、助言をいただきました。評価は 4 段階 ア、適切である

イ、ほぼ適切であるが、改善の余地がある
 ウ、あまり適切とはいえない
 エ、不適切である

アとイの割合が 90%以上なら A、80%以上は B と示しています。

その結果、次のようなまとめを行い、来年度の教育活動に活かすことにしました。（詳細は次頁）

	到達目標	自己評価	学校関係者評価
生徒指導	正しい生活習慣	校内美化や挨拶、言葉遣い等生徒の評価と教員の評価とに差がある。生徒の主体性を育む指導を続ける。	教員の評価の厳しさは意識の高さ。差はやむを得ない面もある。
	安全教育の充実	自転車安全指導や防災指導を強化した。自転車事故件数を減らすことが出来た。	自転車の安全指導は今後も継続し、チェックを続けてほしい。
HR 経営	自主的自律的態度	生徒の悩みの早期発見、担任との信頼関係の構築を図る。国際教育は中学の行事後の伸びが大きい。	留学希望は短期の語学研修も含むと実態を把握できるのでは。
	保護者との連携	ご家庭と学校を結ぶ大事な機会として学年・学級 PTA を捉え、内容の精選と出席の要請を継続する。	母親学級や学園祭のお手伝い等も評価項目に加えたらどうか。
教科指導	確かな学力育成	2 月実施のリーディング・スキルの結果分析により、授業や J タイム、テストに新たな指導を入れ、学力育成を図る。	チャレンジ講座や進路講演会が学力養成に効果的だと確認できた。
	魅力ある授業実践	ICT 機器活用・協同学習などにより、女子教育の強みを生かした授業の質の向上に取り組みたい。	ICT の生徒の活用状況も評価項目に加えてはどうか。

平成30年度
学校評価
計画

		建学の精神	婦人の中に未来の人は眠れり			
		校訓	典雅 荘重 (強く 正しく 美しく)			
		教育目標	未来を拓く女性の育成	30年度結果		
領域	目標	評価項目	達成目標	割合・件数	自己評価	関係者評価
生徒指導	I 正しい生活習慣を身につけさせ常識をわきまえた品位ある生徒を育てる	(1)規則やマナーを守る自律的な態度を育てる	①1年間の校則違反の件数	18件	A	100% A
			②【教員の判断】制服の正しい着方に対する生徒の意識が高い	95.0%	A	
			③【生徒の判断】制服を正しく着ることができる	99.3%	A	
			【保護者の判断】正しい身だしなみの指導が十分	96.7%		
		(2)校内美化に努める	①【生徒の判断】姉妹掃除に自ら進んで取り組む	98.0%	A	
		(3)時間厳守に努める	①【教員の判断】全校朝礼などの集合時間を守る	100.0%	A	
			②【生徒の判断】全校朝礼などの集合時間を守る	96.1%	A	
		(4)規律ある集団行動ができる態度を養う	①【生徒の判断】部活動に積極的に参加する	94.5%	A	
			(5)適正な言葉遣いときちんとした挨拶の徹底を図る	①【教員の判断】挨拶ができる	45.0%	
		②【生徒の判断】挨拶ができる		88.9%	B	
	③【教員の判断】正しい言葉遣いができる	67.5%		D		
	④【生徒の判断】正しい言葉遣いができる	90.5%		A		
	(6)欠席遅刻の減少	【保護者の判断】挨拶や言葉遣いの指導が十分		86.5%		
		①1カ年皆勤の生徒の割合	37.2%	D		
	II 安全教育を充実させる	(1)生徒の防犯意識及び安全対応能力の向上を図る	①1年間の自転車事故件数	2件	A	100% A
			②【生徒の判断】交通ルール・マナーを守る	96.6%	A	
			【保護者の判断】交通安全指導が十分	86.9%		
			③【1年生】不審者への対処法を理解している	90.9%	A	
(2)災害等への適切な対応に関する訓練の充実を図る		①【教員の判断】校内の防災訓練に真剣に取り組む	97.5%	A		
		②【生徒の判断】校内の防災訓練に真剣に取り組む	91.4%	A		
		③【1～5年】地域防災訓練の参加率	49.5%	D		
(3)薬物乱用・喫煙・飲酒等の身体的影響に関する指導の充実を図る	【保護者の判断】防災教育が十分		89.6%			
①【生徒の判断】講演会が参考になった	97.8%	A				
ホームルーム経営	III 自主的自律的態度を育てる	(1)クラスの一員として各種行事やホームルーム活動に積極的に取り組む態度を養う	①【生徒の判断】体育大会、パフォーマンスなどに積極的に取り組む	99.0%	A	91% A
			②【生徒の判断】役員や当番の任務を責任をもって果たす	95.3%	A	
			③【生徒の判断】ホームルーム活動に積極的に取り組む	96.1%	A	
			【保護者の判断】行事やクラス活動への取り組みの指導が十分	94.1%		
		(2)いじめのない、安心して生活できるクラスを作る	①【生徒の判断】いじめがなく、安心して生活できるクラスを作る	89.7%	A	
			②【生徒の判断】担任との信頼関係を構築する	77.1%	C	
			(3)自己表現能力と他人の意見を傾聴する態度の育成を図る	①【生徒の判断】さまざまな場面で積極的に自己表現をする	86.6%	
	②【生徒の判断】講堂朝会や学年集会での話をしっかり聴く	87.6%		B		
	【保護者の判断】話を聴き、表現する指導は十分	91.4%				
	(4)グローバルシブシティシップを涵養する	③【生徒の判断】姉妹活動を通し、他学年との交流を深める	79.3%	C		
		④【生徒の判断】学校行事を通じ海外の文化、生活、言語に対する興味を持つ	80.5%	B		
		⑤【生徒の判断】将来留学したい(含短期留学)と思う	52.6%	B		
	IV 保護者との連携の強化を図る	(1)学年PTAや学級懇談会の内容・回数の適正化を図る	①【保護者の判断】授業参観会、学級懇談会は有意義な会である		90.1%	A
(2)学年、学級通信を発行し学校生活の様子を伝える		①【保護者の判断】学年、学級通信等が学校理解につながる		90.8%	A	
教科指導	V 学習意欲を高め 確かな学力を育てる	(1)個に応じたきめ細かな指導を行う	①【中学生】チャレンジ講座が実力向上に役立つ	100.0%	A	100% A
			②【教員の判断】土曜講習・夏期講習を実力強化につなげる	97.5%	A	
			③【高校生】土曜講習・夏期講習が実力強化につながる	100.0%	A	
		(2)進路に対し広い視野と高い志を育成する	④【中学生】進路入寮・職業調べ等通じて、進路に対する関心が高まる	88.6%	B	
			⑤【高校生】進路講演会等で進路に対しての考えを深める	99.5%	A	
			【保護者の判断】将来につながる進路指導が十分	74.8%		
	(3)家庭学習の習慣を付ける指導を工夫する	①【中学生】自学力アップのためのJタイムにしっかり取り組む	92.0%	A		
		②【教員の判断】個人面談等を活用し、個別学習指導をする	95.0%	A		
		【保護者の判断】自ら学習する姿勢が身についたと感じられる	72.6%			
	VI 魅力と特色のある授業を行う	(1)授業の質を高める	①【教員の判断】公開授業月間を自己研鑽に役立てる	88.8%	B	100% A
			②【生徒の判断】協同学習に意欲的に参加する	85.7%	B	
			③【教員の判断】「大学入試問題研究」を指導力向上につなげる	97.2%	A	
(2)授業の学習環境、雰囲気を整える		【保護者の判断】教員が授業改善に取り組む姿勢が十分	66.2%			
		【保護者の判断】学力の向上に資する授業が行われていると感じられる	62.6%			
		①【生徒の判断】学習四原則を意識して授業に臨む	97.2%	A		
②【教員の判断】ICT機器を効果的に活用した授業が行われている	42.2%	D				